

平成 28 年度

社会福祉法人豊富台福社会

事業計画書

# I 法人本部

## 1. 所在地

兵庫県姫路市豊富町御陰 3 2 7 8 番地の 5 7

## 2. 法人事業の経営理念

- (1) 利用者一人一人を大切にする法人
- (2) 職員の輪を大切にする法人
- (3) 地域との繋がりを大切にする法人

## 3. 経営方針

### (1) 経営基盤の強化

社会福祉事業や公益的な事業への自主的な取組について、責任を持って実施できる管理経営体制を構築する。

### (2) 福祉サービスの質の向上

職員が専門的知識や技術を修得できるように法人内・外部での研修等を推進する。

### (3) 事業経営の透明性の確保

法人内で実施されているサービス内容や経営内容などの情報についての透明性の確保に努める。

## 4. 実施事業

### (1) 第二種社会福祉事業

#### ① 保育所の経営

- 寺前保育所（利用定員 40 名）  
所在地 兵庫県神崎郡神河町寺前 396 番地

#### ② 一時預かり事業の経営

- 認定こども園豊富台保育園 所在地 兵庫県姫路市豊富町御陰 3278 番地の 57
- 寺前保育所 所在地 兵庫県神崎郡神河町寺前 396 番地
- 認定こども園このみ保育園 所在地 兵庫県神戸市北区山田町下谷上字箕谷 21 番地 1

#### ③ 幼保連携型認定こども園の経営

- 豊富台保育園（利用定員 60 名）  
所在地 兵庫県姫路市豊富町御陰 3278 番地の 57
- このみ保育園（利用定員 85 名）  
所在地 兵庫県神戸市北区山田町下谷上字箕谷 21 番地の 1

## 5. 理事会の開催

- (1) 第1回理事会（5月）
  - ① 前年度事業報告及び決算報告の審議、その他
- (2) 第2回理事会（10月）
  - ① 指導監査実施報告、その他
- (3) 第3回理事会（11月）
  - ① 補正予算審議、その他
- (4) 第4回理事会（3月）
  - ① 次年度事業計画及び当初予算の審議、その他
- (5) 臨時理事会（随時）
  - ① 審議の必要に応じ随時開催

## 6. 構成

- (1) 理事6名（理事長含む）
- (2) 監事2名

## 7. 中・長期計画

- (1) 地域の社会福祉ニーズに対応した事業実施
  - ① 新規地域子育て支援事業の実施
  - ② 他地域での保育所新規開
  - ③ 他社会福祉事業開設
- (2) 適正な経営及び財務と透明性の確保
  - ① 外部監査実施（平成27年度決算確定時実施）
- (3) 保育の質の向上と透明性の確保
  - ① 第三者評価受審（平成28年度：認定こども園 このみ保育園 平成29年度：認定こども園 豊富台保育園 寺前保育所）
- (4) 組織の活性化
  - ① 人事考課導入
  - ② キャリアパス（職務職階に応じた研修計画等）の策定

## Ⅱ 認定こども園 豊富台保育園

### 1. 保育理念

共に汗を流し、共に学び、共に喜ぶ。

園において職員こそが、子どもたちの最大の環境と考え、園と家庭との共通認識のもとに、大人が手本となり、一緒に実行する生活の積み重ねをもって、人に対する愛情と信頼感、そして生きる喜びと困難に立ち向かう力を育てるとともに自主、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う。

### 2. 保育目標（親、子、職員共に目指す人柄）

- (1) 人に迷惑をかけない人  
（自分のことは自分でできる自主性を持った人）
- (2) 人に親切にできる人  
（自分の余力を人のために使う人）
- (3) 自分からする人  
（主体的に行動し、自分の力を発揮する人）

### 3. 園児習得目標（調和のとれた人柄の土台作り）

- (1) あいさつは自分から先にする  
（明るい人間関係を開く土台）
- (2) 返事は「はい」とはっきりとする  
（素直な行動が身につく土台）
- (3) 履物をそろえよう、いすを入れる  
（行動に責任を持つ、けじめの土台）

### 4. 教育及び保育方針

- (1) 園では子どもが充分遊びきれる環境を作り、援助していくことで自主性や積極性を育て心の成長を促す。
- (2) 子ども同士がお互いに生き生きと育ち合うための、仲間とのつながりを考えながら、保育者同士のさまざまな配慮や援助の方法を考えていく。
- (3) 子どもを取り巻く自然や社会の中で、子どもたちの感動や驚き、興味や好奇心を引き出し、感性の幅を広げ、質を高めていく。
- (4) 子ども自身の「からだ」とおして、体験的に物事を確かめることを大切にする教育及び保育内容を創造していく。
- (5) 園と家庭が連携し、子どもたちの「食」に関する望ましい基本的生活習慣の確立に向け取り組んでいく。
- (6) 一人一人が体作りの基礎である生活習慣を整えることの重要性をより深く認識しながら、生活リズムの確立に向けた取り組みを進める。
- (7) 安心して甘えられ、愛される関係、自分の思っていることが言え、人のことも聞ける、そんな「しなやかさ」を育てるために保育の内容として「わらべうた」や「遊び」を重視していく。

- (8) 園における活動の組み立てに当たっては、自然環境との出会いを大切にし、工夫して保育の内容に自然を取り込むようにしていく。
- (9) 子どもたちが遊びをとおり、子どもを取り巻くさまざまなものや事象と向き合って体ごとぶつかり、生き生きとした豊かな生活ができるための環境を作り、生きた言葉が育てられる取り組みを進めていく。
- (10) 子どもたちが絵本やお話から培うイメージする力や工夫する力、物事を考える力が「生きる力」につながると考えていく。
- (11) 一人一人の思いや考えを充分受け止め、認めながら、個々の子どもには感じかたや考えかたの相違があることを知らせたり、認識させたりしていくような環境づくりや援助を大切にしていく。
- (12) 子どもたちの現状を知り、子どもの置かれている状況を理解し、また、保護者が自らを語る中に込められた願いを受け止め、教育及び保育課題として実現する。

## 5. 平成 28 年度の重点項目

- (1) 特別保育事業の積極実施、内容の充実
- (2) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた教育及び保育の展開
- (3) 苦情解決処理への積極的な取り組み
- (4) 地域交流事業の推進

## 6. 特別保育事業

- (1) 延長保育事業
- (2) 一時保育事業
- (3) 預かり保育事業

## 7. 地域交流事業

- (1) 世代間交流事業
  - ① 地域の高齢者や小学生との交流（年 1 回）
- (2) 地域子育て支援事業
  - ① 園庭開放
    - ・ 随時実施
  - ② 貸し出し絵本
    - ・ 毎週実施
- (3) ボランティア、就業体験受け入れ事業
  - ① 保育士養成機関実習生受け入れ（最低 2 名受け入れ）
  - ② 就業体験高校生受け入れ
  - ③ トライやるウィーク中学生受け入れ（最低 1 校受け入れ）

## 8. 職員構成

職種	正規職員	契約職員
園長	1名	
主幹保育教諭	1名	
保育教諭	6名	4名
事務員	1名	
栄養士		1名
調理員		2名
運転手		選定中
学校医（非常勤）		1名
学校歯科医（非常勤）		1名
学校薬剤師（非常勤）		1名
計	9名	10名（非常勤1名）

## 9. クラス編成（平成28年3月9日現在）

クラス名	年齢	児童数 (2・3号認定)	児童数 (1号認定)
たんぽぽ	0歳児	0名	
さくら	1歳児	5名	
さくら	2歳児	8名	
すみれ	3歳児	5名	2名
ばら	4歳児	8名	5名
ひまわり	5歳児	7名	3名
計		33名	10名

## 10. 健康管理

- (1) 健康診断  
年2回（4月・10月）
- (2) 歯科検診  
年1回（6月）
- (3) 身体測定  
毎月

## 11. 衛生管理

- (1) 感染症対応マニュアルに基づいた対応とマニュアルの見直しを定期的に行う。

## 12. 安全管理

- (1) 交通安全指導  
年1回（9月）
- (2) 避難訓練  
非常災害対策訓練年間計画表に沿って実施（毎月）

### 13. 食に対する取組

- (1) アレルギー対応の実施
- (2) 年間食育計画に基づいた取組の実施
- (3) 授乳・離乳の支援ガイドを基本とした離乳食
- (4) 給食衛生管理マニュアルに基づいた対応

### 14. 苦情処理

- (1) 苦情への適切な対応により、保育サービスに対する利用者の満足感を高めると共に、利用者が保育サービスを適切に利用する事が出来るように支援する事と、苦情を密室化せず社会性或客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより、円滑・円満な解決の促進や当園の信頼と適正性を図る為に苦情解決規程を設けて、お知らせ、ポスター、ホームページなどで周知する。

## 15. 情報公開

- (1) よい子ネットの定期更新およびホームページの開設  
実施されているサービス内容や経営内容などの情報について、透明性の確保に努める。

## 16. 行事予定

4月	入園式 健康診断
5月	歓迎遠足 お相撲大会 トライやるウィーク受け入れ
6月	歯科検診
7月	プール開き お泊り保育
8月	夕涼み会
9月	交通安全教室
10月	運動会 健康診断 芋掘り遠足
11月	保育参観
12月	サンタ列車 クリスマス会 お餅つき
1月	カルタ大会 とんど
2月	豆まき 春を待つ音楽会
3月	お別れ遠足 新入園児説明会 卒園式

月例行事 遠足 おたんじょう会

## 17. 研修計画

保育教諭等には、自分自身の資質の向上を意識し、業務に必要な基本知識や技能を高め、専門性を高める意識を持ち、研修で学んだことを日々の保育活動に生かしていく必要がある。

保育教諭等に求められる人間性と専門性について、次の3つの視点を挙げる。

- (1) 子どもたちの育ちを援助する力を身に付ける。

保育教諭等の意図を優先し、子どもたちに対して、一方的に自分自身の考えを押し付けたり、働きかけたりするのではなく、保育の中心は、子どもが主体であるという認識のもと、子どもの思い（心に寄り添うこと）を感じ取ることが大切である。援助の方法は、子ども一人ひとりの状態や状況によって違う。常に、その時々保育教諭等は、子ども自身が自ら、自分の課題を乗り越えていくことの出来るよう、援助を行うことが必要だと考える。

- (2) 保育教諭等が豊かな人間性を身に付ける。

子どもの理解や受容は決して一方的なものではなく、保育教諭等の心と子どもの心の相互的な営みであると考え。子どもの気持ちを受け止めようと、保育教諭等が一人の人間として、子どもと関わる時、子どもたちは、それを感じ取り、心を開き、自分らしさを表現する。この関係こそが、互いの信頼関係を生み出す基盤となると考える。



### (3) モデルとしての保育教諭等

保育教諭等が自覚しなければならないことは、自分の持つ文化や価値観の枠組みを、保育の場において、意図的、または無意識のうちに、子どもに示しているということである。その時、常に保育教諭等は、この枠組みや価値観を絶対視することなく、いつも柔軟な姿勢で見直し続ける必要があると考える。子どもに自分の価値観を押し付けるのではなく、子ども自身が主体的に、それを取り入れたり、乗り越えて行けるようにすることが大切だと考える。

これらの視点から、平成 27 年度は以下の目的による研修を実施する。

- ① 専門性を高める研修（随時）  
（保育に必要な基本的知識及び実践力の向上に繋がる研修と、多様なニーズに対応するための研修）
- ② 自己課題を解決・達成する研修（随時）  
（一人ひとりの子どもの持つ課題に対して、どのように援助を行うのか、資質向上の研修）
- ③ ライフステージに応じた研修（随時）  
（年齢や、経験に応じた立場や役割を認識し、職務を遂行するために資質、指導力の向上を図る研修）
- ④ カウンセリングマインドを高める研修（随時）  
（保護者や、子ども一人ひとりの声に傾聴し、受容し、相互の信頼関係の確立を基本として、相談者の自立を援助するためのカウンセリングマインドを身に付ける研修）
- ⑤ 保・幼・小の連携を促進する研修（随時）  
（それぞれの地域の実情や、子どもたちの実態に応じ、子どもたちを中心に据えた実践研修）
- ⑥ 子育て支援者としての役割に関する研修（随時）  
（子育ての知識、経験、技術を蓄積している保育者が、地域における子育て支援の役割を積極的に担う研修）

## 18. 委員会活動

- (1) 食育委員会  
子どもたちが、食べることに興味を示して、みんなで一緒に楽しく給食の時間を過ごせるように取り組む。
- (2) 絵本委員会  
絵本からイメージする力や工夫する力、物事を考える力が「生きる力」につながると考え、保育園以外の子どもたちも利用出来る、貸し出し絵本を行う。
- (1) 環境委員会  
保育環境の整備、向上とともに、施設内外の設備及び用具等の衛生に注意し、活動する。
- (2) 保健衛生委員会  
子どもたち及び職員の安全及び健康の確保のために施設内外の保健的環境の維持及び向上に努める
- (3) おもちゃ委員会  
おもちゃで遊ぶことは、子どもたちが成長していくうえで大変、重要な意義をもっていると考え、子どもたちと一緒に、おもちゃで遊んだり、おもちゃを作る楽しみや喜びを伝えていく。

## 19. 職員会議

- (1) 定例会議（毎月）

## 20. 福利厚生

- (1) 職員健康診断（年2回）
- (2) 細菌検査（調理担当・調乳担当・主幹保育教諭のみ）（毎月）
- (3) 親睦旅行（年1回）
- (4) 福利厚生センター加入
- (5) 福祉医療機構退職共済加入

# Ⅲ 寺前保育所

## 1. 運営方針

- (1) 運営に当たっては、子ども、保護者の方々の立場に立ち、神河町立寺前保育所が実施してきた方針や使用してきた名称などを継承しつつ、より良い保育を目指す。
- (2) 子どもたちが1日の生活の大半を保育所で過ごすことから、安全の確保、健康の保持及び衛生の保持などについて細心の注意を払う。
- (3) 定期的（3年に一度）に第三者評価を受審することで保育の質の向上を図る。
- (4) 保育所内では政治・宗教に係る活動などは一切、行わない。
- (5) 関係機関との連携・協力を努める。
- (6) 保育内容などの情報開示に努める。
- (7) 保育所運営にあたり、地域の自治会、近隣住民の方々と十分な意見調整を行う。
- (8) 保育所の運営状況や財務状況を必要に応じて、保護者の方々に説明する。
- (9) 法人として定期的（5年に一度）に外部会計監査を実施することで、より適正な経営管理、財務管理を行い、施設運営の透明性を高める。

## 2. 保育理念

**共に汗を流し、共に学び、共に喜ぶ。**

園において職員こそが、子どもたちの最大の環境と考え、園と家庭との共通認識のもとに、大人が手本となり、一緒に実行する生活の積み重ねをもって、人に対する愛情と信頼感、そして生きる喜びと困難に立ち向かう力を育てるとともに自主、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う。

## 3. 保育目標（親、子、職員共に目指す人柄）

- (1) 人に迷惑をかけない人  
（自分のことは自分でできる自主性を持った人）
- (2) 人に親切にできる人  
（自分の余力を人のために使う人）
- (3) 自分からする人  
（主体的に行動し、自分の力を発揮する人）

## 4. 保育方針

- (1) 保育所では子どもが充分遊びきれる環境を作り、援助していくことで自主性や積極性を育て心の成長を促す。
- (2) 子ども同士がお互いに生き生きと育ち合うための、仲間とのつながりを考えながら、保育者同士のさまざま

まな配慮や援助の方法を考えていく。

- (3) 子どもを取り巻く自然や社会の中で、子どもたちの感動や驚き、興味や好奇心を引き出し、感性の幅を広げ、質を高めていく。
- (4) 子ども自身の「からだ」とおして、体験的に物事を確かめることを大切にする保育内容を創造していく。
- (5) 保育所と家庭が連携し、子どもたちの「食」に関する望ましい基本的生活習慣の確立に向け取り組んでいく。
- (6) 一人一人が体作りの基礎である生活習慣を整えることの重要性をより深く認識しながら、生活リズムの確立に向けた取り組みを進める。
- (7) 安心して甘えられ、愛される関係、自分の思っていることが言え、人のことも聞ける、そんな「しなやかさ」を育てるために保育の内容として「わらべうた」や「遊び」を重視していく。
- (8) 保育所における活動の組み立てに当たっては、自然環境との出会いを大切に、工夫して保育の内容に自然を取り込むようにしていく。
- (9) 子どもたちが遊びをとおし、子どもを取り巻くさまざまなものや事象と向き合って体ごとぶつかり、生き生きとした豊かな生活ができるための環境を作り、生きた言葉が育てられる取り組みを進めていく。
- (10) 子どもたちが絵本やお話から培うイメージする力や工夫する力、物事を考える力が「生きる力」につながると考えていく。
- (11) 一人一人の思いや考えを充分受け止め、認めながら、個々の子どもには感じかたや考えかたの相違があることを知らせたり、認識させたりしていくような環境づくりや援助を大切にしていく。
- (12) 子どもたちの現状を知り、子どもの置かれている状況を理解し、また、保護者が自らを語る中に込められた願いを受け止め、保育課題として実現する。

## 5. 平成 28 年度の重点項目

- (1) 保育内容の継承
  - ① 保育所保育指針を基本とし、寺前保育所の先生方が大切にしてきた保育内容を継承していく。
  - ② 兵庫県人権教育基本方針を尊重し、それぞれの子どもの最善の利益を考慮した保育を行う。
- (2) 保護者意見の反映
  - ① 保護者会の活動を積極的に支援していく。
  - ② 保護者からの意見・要望などについては実現に努めるとともに、実現の可否に係わらず、その対応について説明を行う。
  - ③ 行事ごとに保護者の方々を対象としたアンケート調査を実施し、その結果を保護者の方々に報告する。
- (3) 給食に対する取組
  - ① 年間食育計画に基づいた取組の実施
  - ② アレルギー対応の実施

- ③ 授乳・離乳の支援ガイドを基本とした離乳食
- ④ 給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
- ⑤ 食の安全に対する取り組み(有機・無農薬米及び有機・無農薬野菜の使用)

#### (4) 保育教諭等のあり方

相手(子ども・保護者・職員)の理解や受容は決して一方的なものではなく、お互いの心と心の相互的な営みであると考えます。

相手の気持ちを受け止めようと、自分が一人の人間として相手と関わる時、相手は、それを感じ取り、心を開き、自分らしさを表現する。この関係こそが、互いの信頼関係を生み出す基盤となると考える。

##### ① 一人一人の子どもを大切に、「自分は愛されている」「大切にされている」思いを育む

- 一人一人に丁寧に、ゆっくり、ゆったりと接する。
- 子どもの目線に立ち、子どもの思いをしっかりと受け止め、子どものことばに耳を傾ける。
- 子どもの性差や個人差、個性を肯定し、留意して接する。
- 指示、命令、強制のことばをつかわない。
- 友だち同士で思いや体がぶつかったときは、お互いの気持ちに寄り添いながら、友だちの思いや痛みに気づけるよう、ていねいにかかわるとともに、子どもたちが自分たちで気づくことができるよう見守る。
- 子どもの固有の感性を引き出して豊かに育み、育んだ豊かな感性を保てるよう、子どもの感じ方や考えを積極的に受容する。
- 自分の意図を優先し、子どもに対して、一方的に自分自身の考えを押し付けたり、働きかけたりするのではなく、保育の中心は、子どもが主体であるという認識のもと、子どもの思いを感じ取る

##### ② 保護者との関係づくり

- 保護者の家庭状況、家庭環境を十分に理解し、日ごろから子どもの様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりして、保護者の思いを受け止め、信頼関係を築く。
- 子どもの思い、保育教諭等の思いをしっかりと伝え、現状を理解してもらう。

##### ③ 職員の協力体制

- 職員間で情報を共有する。
- 保育園全体をひとつのクラス、または家庭と捉え、担任以外の全ての子どもにも目を向け、一人一人の子どもの状況などについて共通理解できるようにする。
- それぞれの役割を自覚し、責任を果たすとともに、他の職員の立場や状況を十分に理解し、お互いに協力しあい、助け合う。
- 職員それぞれの思いを受け止め、信頼関係を築く。
- クラス内外で積極的にコミュニケーションをとり、子どもにとってより良いかわりを一緒に見出していく。

##### ④ 職員の資質向上

- 子どもたち一人一人をしっかりと理解することに務め、気になることなどは、ケース検討会議などの場において、全員で考える。
- 専門性を高めるため、自らの人間性や社会性、専門職としての向上に努め、自己研鑽する。

##### ⑤ 子ども目線の環境づくり

- 限られたスペースの中で、子どもたちが自分の空間を見つけ、落ち着いて過ごせる 場所づくりをする。

- 「遊・食・寝・」の環境を用意し、子どもたちが心地よく過ごせる場にする。
- 子どもがいつでも休息できる場所を用意しておく。
- 子どもが自由に遊べるよう、また、子ども自身が主体的に遊べるよう、育ちにふさわしい環境、玩具を準備しておく。
- 子どもの感覚を大事にし、子どもが好きな色を選んだり、画用紙なども好きな色が選べるように工夫する。
- 家庭的な雰囲気づくりにつとめる。
- 一時保育、延長保育、土曜日の保育は、特に落ち着いて過ごせるように配慮する。

## 6. 特別保育事業

- (1) 延長保育事業
- (2) 一時保預かり事業

## 7. その他事業

社会福祉施設は福祉サービスを提供するだけでなく、地域の社会資源として、利用者にとっても住民にとっても、地域との関わりを持ちながら暮らすことを支援する「地域の中の施設」でなければならない。そのためには、施設の持つ特性を地域社会へ発揮していくとともに、地域の持つ特性を施設へ活用していく。

### (1) 地域交流、世代間交流事業

- ① 地域読み聞かせボランティア若菜会との交流(月1回)
- ② 寺前地区ミニディ参加(年3回)

### (2) 幼少連携事業

- ① 寺前小学校児童との交流(未定)
- ② 神河町立幼稚園園児との交流(未定)

### (3) 異文化交流事業

- ① 神河町外国語指導助手との交流(年3回)

### (4) ボランティア・就業体験受け入れ事業(キャリア教育推進協力)

望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育

- ① 保育士養成機関実習生受け入れ(2名以上)
- ② トライやるウィーク中学生受け入れ(4名以上)

### (5) 地域子育て支援事業

- ① 園庭開放(週2回)
- ② 絵本の貸し出し(週1回)
- ③ 懇談スペースの提供(月1回)

### (6) 子育て相談事業

① 子育てアドバイザー来園（月2回）

② 懇談スペースの提供（月2回）

(7) 体験型環境学習事業

① 動物とのふれあい・飼育体験

② 作物の栽培・収穫体験

③ 緑のカーテン（植物による壁面緑化）

8. 職員構成

職種	正規職員	契約職員
施設長	1名	
主任保育士	1名	
保育士	7名	4名
調理師		1名
管理栄養士		1名
栄養士		1名
嘱託医（非常勤）		1名
嘱託歯科医（非常勤）		1名
計	9名	9名（非常勤2名）

嘱託医 …………… 立岩 誠（立岩医院 神崎郡神河町寺前 33-1 TEL0790-34-0033）

嘱託歯科医 …………… 久保 雅彦（くぼ歯科 神崎郡神河町寺前 219-3 TEL0790-34-0800）

10. クラス編成（平成27年3月13日現在）：

クラス名	年齢	児童数(2・3号認定)	常勤保育士数	短時間保育士数
ちゅーりっぷ	0歳児	1名	3名	1名
	1歳児	12名		
すみれ	2歳児	19名	3名	1名
ひまわり	3歳児	21名	2名	1名
	4歳児	0名		
	5歳児	0名		
フリー・一時保育			0名	3名
主任			1名	0名
計		53名	9名	6名

11. 健康管理

(1) 健康診断

年2回（5月・11月）

(2) 歯科健診及び歯科衛生指導

年1回（6月）

(3) 身体測定

毎月

## 12. 保健衛生管理

- (1) 保健衛生に関する研修を実施し、感染症対応マニュアルの見直しを定期的に行う（年1回）

## 13. 安全管理

- (1) 交通安全指導（年3回）
- (2) 避難訓練  
非常災害対策訓練年間計画表に沿って実施（毎月）
- (3) 不審者対応訓練  
不審者対応マニュアルに基づいた訓練を実施し、マニュアルの見直しを定期的に行う（年1回）
- (4) AEDの設置
- (5) 救急救命講習の実施（年1回）

## 14. 施設管理改修

- (1) 施設管理改修等の考え方については以下の優先順位とする
  - ① 危険箇所の改修
  - ② 安全性の向上
  - ③ 環境の改善

## 15. 苦情処理

- (1) 苦情への適切な対応により、保育サービスに対する利用者の満足度を高めると共に、利用者が保育サービスを適切に利用する事が出来るように支援する事と、苦情を密室化せず社会性或客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより、円滑・円満な解決の促進や当園の信頼と適正性を図る為に苦情解決規程を設けて、お知らせ、ポスター、ホームページなどで周知する

## 16. 情報公開

- (1) よい子ネットの定期更新およびホームページの開設  
実施されているサービス内容や経営内容などの情報について、透明性の確保に努める。



## 17. 行事予定

4月	入園式
5月	内科健診 親子遠足
6月	歯科健診 オープン参観（給食試食会）
7月	七夕会 プール遊び
8月	プール遊び
9月	運動会
10月	お祭りごっこ、屋台ごっこ
11月	芋掘り 焼き芋大会（地域との交流） 内科健診
12月	おたのしみ会 サンタさん来園 サンタ列車（3歳児のみ） お餅つき
1月	とんど 参観日（給食試食会）
2月	豆まき
3月	修了式

月例行事 おたんじょう会

## 18. 研修計画

保育教諭等には、自分自身の資質の向上を意識し、業務に必要な基本知識や技能を高め、専門性を高める意識を持ち、研修で学んだことを日々の保育活動に生かしていく必要がある。

保育教諭等に求められる人間性と専門性について、次の3つの視点を挙げる。

(1) 子どもたちの育ちを援助する力を身に付ける。

保育教諭等の意図を優先し、子どもたちに対して、一方的に自分自身の考えを押し付けたり、働きかけたりするのではなく、保育の中心は、子どもが主体であるという認識のもと、子どもの思い（心に寄り添うこと）を感じ取ることが大切である。援助の方法は、子ども一人ひとりの状態や状況によって違う。常に、その時々保育教諭等は、子ども自身が自ら、自分の課題を乗り越えていくことの出来るよう、援助を行うことが必要だと考える。

(2) 保育教諭等が豊かな人間性を身に付ける。

子どもの理解や受容は決して一方的なものではなく、保育教諭等の心と子どもの心の相互的な営みであると考え。子どもの気持ちを受け止めようと、保育教諭等が一人の人間として、子どもと関わる時、子どもたちは、それを感じ取り、心を開き、自分らしさを表現する。この関係こそが、互いの信頼関係を生み出す基盤となると考える。

(3) モデルとしての保育教諭等

保育教諭等が自覚しなければならないことは、自分の持つ文化や価値観の枠組みを、保育の場において、意図的、または無意識のうちに、子どもに示しているということである。その時、常に保育教諭等は、この枠組みや価値観を絶対視することなく、いつも柔軟な姿勢で見直し続ける必要があると考える。子どもに自分の価値観を押し付けるのではなく、子ども自身が主体的に、それを取り入れたり、乗り越えて行けるようにすることが大切だと考える。

これらの視点から、平成28年度は以下の目的による研修を実施する。

- ① 専門性を高める研修（随時）  
（保育に必要な基本的知識及び実践力の向上に繋がる研修と、多様なニーズに対応するための研修）
- ② 自己課題を解決・達成する研修（随時）  
（一人ひとりの子どもの持つ課題に対して、どのように援助を行うのか、資質向上の研修）
- ③ ライフステージに応じた研修（随時）  
（年齢や、経験に応じた立場や役割を認識し、職務を遂行するために資質、指導力の向上を図る研修）
- ④ カウンセリングマインドを高める研修（随時）  
（保護者や、子ども一人ひとりの声に傾聴し、受容し、相互の信頼関係の確立を基本として、相談者の自立を援助するためのカウンセリングマインドを身に付ける研修）
- ⑤ 保・幼・小の連携を促進する研修（随時）  
（それぞれの地域の実情や、子どもたちの実態に応じ、子どもたちを中心に据えた実践研修）
- ⑥ 子育て支援者としての役割に関する研修（随時）  
（子育ての知識、経験、技術を蓄積している保育者が、地域における子育て支援の役割を積極的に担う研修）
- ⑦ 保育内容検討研修（年12回）  
講師：神戸女子短期大学 講師 八木 昌子 氏

## 19. 職員会議

- (1) 定例会議（毎月）

## 20. 委員会活動

- (1) 食育委員会

子どもたちが食べることに興味を示して、みんなで一緒に楽しく給食の時間を過ごせるように取り組む。

- (2) 環境委員会

保育環境の整備、向上とともに、施設内外の設備及び用具等の衛生に注意し、活動する。

- (3) 保健衛生委員会

子どもたち及び職員の安全及び健康の確保のために施設内外の保健的環境の維持及び向上に努める

- (4) おもちゃ委員会

おもちゃで遊ぶことは、子どもたちが成長していくうえで大変、重要な意義をもっていると考え、子どもたちと一緒に、おもちゃで遊んだり、おもちゃを作る楽しみや喜びを伝えていく。

- (5) 絵本委員会

絵本からイメージする力や工夫する力、物事を考える力が「生きる力」につながると考え、保育園以外の子どもたちも利用出来る、貸し出し絵本を行う。

## 21. 福利厚生

- (1) 職員健康診断（年1回）

- (2) 細菌検査（毎月）

- (3) インフルエンザ予防接種（11月）

- (4) 福祉医療機構退職共済加入

- (5) その他会議等で職員からの要望を聞き、要望を反映させていく

## IV 認定こども園 このみ保育園

### 1. 運営方針

- (1) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、それぞれの子どもの最善の利益を考慮した保育を行う。
- (2) 保護者からの意見・要望などについては実現に努めるとともに、実現の可否に係わらず、その対応について説明を行う。
- (3) 子どもたちの安全の確保、健康の保持及び衛生の保持などについて細心の注意を払う。
- (4) 定期的（3年に一度）に第三者評価を受審することで教育及び保育の質の向上を図る。
- (5) 関係機関との連携・協力を努める。
- (6) 自治会に加入し、地域の一員として積極的に活動に参加する。
- (7) 教育及び保育内容などの情報開示に努める。
- (8) 施設の運営状況や財務状況を必要に応じて、保護者の方々に説明する。
- (9) 法人として定期的（5年に一度）に外部会計監査を実施することで、より適正な経営管理、財務管理を行い、施設運営の透明性を高める。

### 2. 施設の詳細

開園時間	7:00～19:00 ・ 保育標準時間利用者の方は7:00～7:30及び18:30以降は有料 ・ 1号認定利用者及び2・3号認定保育短時間利用者の方は7:00～9:00及び17:00以降は有料
受け入れ年齢	生後6か月から
定員	1号認定こども 15名 2号認定子ども 46名 3号認定こども 24名

### 3. クラス編成（平成28年3月13日現在）

クラス名	年齢	児童数	常勤保育士数	短時間保育士数
うめ	0歳児	3名	2名	
さくらんぼ	1歳児	12名	2名	
もも	2歳児	12名	2名	1名
りんご みかん	3歳児	19名	5名	1名
	4歳児	19名		
	5歳児	14名		
どんぐり	一時・フリー		1名	2名
主幹			1名	
計		79名	13名	4名

#### 4. 利用可能サービス

延長保育	<p>対象者 保育標準時間認定利用者の方及び保育短時間認定利用者の方</p> <p>保育時間 7:00～7:30及び18:30～19:00</p> <p>利用料金（月額） 30分延長（朝、夕いずれか） 2,500円 1時間延長（朝＋夕） 4,500円  （日額） 30分延長（朝、夕いずれか） 200円 1時間延長（朝＋夕） 300円</p> <p>※被生活保護世帯及び前年度分所得税非課税かつ前年度分市民税非課税世帯は無料</p>																				
預かり保育	<p>対象者 保育短時間認定利用者の方</p> <p>保育時間 7:30～9:00及び17:00～18:30</p> <p>利用料金（月額） 階層区分ごとの保育標準時間と保育短時間の利用者負担額の差額</p>																				
預かり保育	<p>対象者 教育標準時間認定利用者の方</p> <table> <tr> <td>保育時間 7:00 ～ 7:30</td> <td>利用料金（月額）</td> <td>2,500円</td> <td>（日額）</td> <td>200円</td> </tr> <tr> <td>保育時間 7:30 ～ 9:00</td> <td>利用料金（月額）</td> <td>2,500円</td> <td>（日額）</td> <td>200円</td> </tr> <tr> <td>保育時間 17:00 ～ 18:30</td> <td>利用料金（月額）</td> <td>2,500円</td> <td>（日額）</td> <td>200円</td> </tr> <tr> <td>保育時間 18:30 ～ 19:00</td> <td>利用料金（月額）</td> <td>2,500円</td> <td>（日額）</td> <td>200円</td> </tr> </table>	保育時間 7:00 ～ 7:30	利用料金（月額）	2,500円	（日額）	200円	保育時間 7:30 ～ 9:00	利用料金（月額）	2,500円	（日額）	200円	保育時間 17:00 ～ 18:30	利用料金（月額）	2,500円	（日額）	200円	保育時間 18:30 ～ 19:00	利用料金（月額）	2,500円	（日額）	200円
保育時間 7:00 ～ 7:30	利用料金（月額）	2,500円	（日額）	200円																	
保育時間 7:30 ～ 9:00	利用料金（月額）	2,500円	（日額）	200円																	
保育時間 17:00 ～ 18:30	利用料金（月額）	2,500円	（日額）	200円																	
保育時間 18:30 ～ 19:00	利用料金（月額）	2,500円	（日額）	200円																	
一時保育	<p>保育時間 08:00～18:00</p> <table> <tr> <td>利用料金（4時間以下日額）</td> <td>非定型及び緊急</td> <td>1,200円（給食おやつ代含む）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>リフレッシュ</td> <td>1,800円（給食おやつ代含む）</td> </tr> <tr> <td>利用料金（日額4時間以上）</td> <td>非定型及び緊急</td> <td>2,400円（給食おやつ代含む）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>リフレッシュ</td> <td>3,600円（給食おやつ代含む）</td> </tr> </table> <p>※被生活保護世帯は非定型及び緊急利用のみ無料</p>	利用料金（4時間以下日額）	非定型及び緊急	1,200円（給食おやつ代含む）		リフレッシュ	1,800円（給食おやつ代含む）	利用料金（日額4時間以上）	非定型及び緊急	2,400円（給食おやつ代含む）		リフレッシュ	3,600円（給食おやつ代含む）								
利用料金（4時間以下日額）	非定型及び緊急	1,200円（給食おやつ代含む）																			
	リフレッシュ	1,800円（給食おやつ代含む）																			
利用料金（日額4時間以上）	非定型及び緊急	2,400円（給食おやつ代含む）																			
	リフレッシュ	3,600円（給食おやつ代含む）																			
子育て相談	随時受付																				

#### 5. 教育及び保育理念

- 一人ひとりの子どもの最善の利益を守り、保護者の皆様と共に、心身を健やかに育む。
- 子どもが様々な人と出会い、関わり、心を通わせながら成長していくために、乳幼児期にふさわしい生活の場を豊かに作りあげていく。

#### 6. 教育及び保育の目標（家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの子どもを大切に育てる）

- 心も体も健やかな子ども
  - ◇ 子どもが生き生きと活動できるよう、発達に応じた遊具や用具を用意する。
  - ◇ 心と体の栄養になるよう、安全な食材でおいしい給食を提供する。
- 自分らしさを発揮する子ども
  - ◇ 生活の場面においても、遊びの場面においても、子どもが自分から考えたことを表現し、行動できるように環境を構成すると共に、子どもが自分らしく、のびのびと過ごせる時間と空間を大切にする。
- 相手の気持ちがわかる子ども
  - ◇ 保育教諭は、常に子どもの気持ちを考えて接し、また、子どもが他人の気持ちを考えることができるよう援助する。

## 7. 保育の基本方針

### 〈家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの子どもを大切に育てるための保育〉

- 保育教諭は常に温かく落ち着いた態度で子どもに接し、子どものあるがままを受け入れる。
- 子どもが安全に安心して過ごせ、また、一人ひとりの発達や興味にあった遊びが豊かに展開できるよう教育・保育環境を整え、子どもが自主的に遊ぶ姿を見守る。
- 子ども自身が「愛されている」「認められている」「大切にされている」と感じられるように一人ひとりの子どもに愛情を持って寄り添う。
- 伝承的な行事やわらべ歌遊びを取り入れ日本古来の文化を学ぶ。また、小動物や植物など自然との触れ合いを通して命の大切さや豊かな感性を育てる。
- 乳児は担当制による丁寧な育児を通して、生活習慣の自立を図る。
- 給食は、子どもの成長に即した内容で実施し、心身の健やかな発達を支える。
- 楽しく食べる体験を通して、子どもの食への関心を育み、「食を営む力」の基礎を培う。
- 十分な運動遊び、戸外遊びを通して全身の諸機能の調和的発達を促す。
- 食事、排泄、睡眠、運動など毎日の生活リズムを整え、健康な身体の基礎をつくる。
- 子ども的人格を尊重して教育・保育することで、自分も他者も大切にできる心を育てる。
- 色々な国や地域の文化に触れる経験を通して、違いに気付いたり相手を認めたりする心を育てる。

### 〈職員としての姿勢〉

- 職員全員が子どもに関わり、よりよい人的環境になるよう心掛ける。
- 一面的な見方ではなく、多方面から見つめ、子どもの理解に努める。
- 年齢ごとに発達を固定的にとらえることなく、個々に合わせた発達を長いスパン（時間の幅）の中でとらえていく。
- 職員間の連携を密にし、チームワークを組んで保育に取り組んでいく。
- 教育・保育について日々研鑽に努め、保育園内外の研修を計画的に実施し、教育及び保育技能の向上に努める。
- 専門機関や地域の関係機関と連携し、教育及び保育の質の向上を目指す。
- 一人ひとりの保護者の方の状況を踏まえ、信頼関係を築き共育てをすすめる。
- 職員は専門性を活かし、地域の子育て支援に貢献する。
- 保護者の方や子どもの個人情報の取り扱いは適正に行い、在職中はもちろん離職後も、情報の保護、秘密の保持を行う。

## 〈学校、地域との連携〉

- 地域との交流やボランティアの受け入れは、子どもや職員にとってより豊かな経験となるよう、また、本園が地域の施設として認められるよう、計画性をもって積極的に行う。
- 実習生の受け入れは、次代の保育教諭育成に欠かせないだけでなく、指導することによって自らの保育を客観視し自己を向上させる機会となるため、計画性を持って積極的に行う。

## 8. 延長保育及び預かり保育の内容

- 止むを得ない理由により、支給認定における教育・保育時間の範囲を超えて教育・保育を必要とする場合は、当該支給認定に係る園児に対し教育・保育の必要な範囲内において延長保育及び預かり保育を提供する。

## 9. 食事の提供

- 子どもの健全な発育に必要な栄養が摂れるよう、バランスのとれた献立を工夫する。
- 安全・安心な食事を提供するために、国産の食材を使用することを原則とし、納入業者に依頼する。
- 安定感と温もりのある強化磁器の食器を使用する。
- 楽しい雰囲気の中で食事をしながら、望ましい食生活習慣が身につくように気を配る。
  - ◎ 食前のうがい・手洗い
  - ◎ 食前・食後のあいさつ
  - ◎ 正しい姿勢で食べる
  - ◎ できるだけ多くの種類の食べものや料理を味わう
- 給食内容
  - ◎ 乳 児・・・主食・副食(一汁三菜・デザート)・おやつ(午前・午後)
  - ◎ 幼 児・・・主食・副食(一汁三菜・デザート)・おやつ(午後)
- 午後のおやつは週4回、手づくりおやつを提供する。
- 夕方18:00以降に軽食を用意する。

## 10. 昼寝について

- 子どもの成長をうながし、心身の疲れをいやすために毎日、昼寝を行う。お昼寝の時間について子ども一人ひとりの状況に合わせて柔軟に対応していく。

## 11. その他事業

社会福祉施設は福祉サービスを提供するだけでなく、地域の社会資源として、利用者にとっても住民にとっても、地域との関わりを持ちながら暮らすことを支援する「地域の中の施設」でなければならない。そのためには、施設の持つ特性を地域社会へ発揮していくとともに、地域の持つ特性を施設へ活用していく。

- (1) 地域交流、世代間交流事業
- (2) 幼少連携事業
- (3) 異文化交流事業
- (4) ボランティア・就業体験受け入れ事業（キャリア教育推進協力）
- (5) 地域子育て支援事業
- (6) 体験型環境学習事業



## 12. 年間行事

4月	3日(日) 入園式
5月	未定 遠足
6月	未定 プラネタリウム観賞(5歳児以上) 13日(月)~30日(木)個別懇談
7月	4日(月) プール開き
8月	26日(金) プールじまい
9月	
10月	★23日(日) 運動会(3歳児以上) 未定 芋掘り遠足(3歳児以上)
11月	未定 遠足(3歳児以上) ★1日(火)~30日(水) 保育参観
12月	
1月	
2月	★19日(日) たのしいつどい(3歳児以上)
3月	未定 お別れ遠足(3歳児以上) ★24日(日) 卒園式(3歳児以上)

★印は保護者参加行事

月例行事 お楽しみ会・身体測定・避難訓練

体育正課指導 月2回(3歳以上児)

### 13. デイリープログラム

3歳未満児の一日	時刻	3歳児以上児の一日
延長保育	7:00	延長保育
預かり保育（保育短時間利用者の方）	7:30	預かり保育（教育標準時間認定利用者の方） 預かり保育（保育短時間利用者の方）
持ち物の整理 コーナー遊びなど好きな遊び		持ち物の整理 コーナー遊びなど好きな遊び
おやつ （0歳児午前睡）	9:00	年齢や季節に応じた遊び
年齢や季節に応じた遊び		
食事	11:00	
	11:30	食事
昼寝	12:00	
	13:00	昼寝
目覚め	15:00	目覚め
おやつ		おやつ
外遊び、コーナー遊びなど好きな遊び	15:30	外遊び、コーナー遊びなど好きな遊び順次降園
順次降園		順次降園
預かり保育（保育短時間利用者の方）	17:00	預かり保育（教育標準時間認定利用者の方） 預かり保育（保育短時間利用者の方）
夕間食	18:00	夕間食
延長保育	18:30	延長保育
全員降園	19:00	全員降園

### 14. 教育・保育を提供する日

- 月曜日から土曜日まで。ただし、年末年始（12月29日～1月3日）、祝祭日を除く
- 警報発令時でも開園するが、子どもたちの安全が確保できないと園長が判断した場合は教育・保育時間中であっても休園とし、すぐにお迎えを依頼する。具体的には該当地区への避難準備が発令された時点で、よい子ネットでの緊急メール配信を行う。

### 15. 教育及び保育を提供する時間

- 教育標準時間認定： 9時00分から17時00分の範囲内で、保護者が教育及び保育を必要とする時間
- 保育標準時間認定： 7時30分から18時30分の範囲内で、保護者が保育を必要とする時間
- 保育短時間認定： 9時00分から17時00分の範囲内で、保護者が保育を必要とする時間

## 16. 職員の体制

- 職種別の職員の数（資格保有者の数）

職種	勤務形態別人数	資格保有
園長	常勤 1名	社会福祉主事
主幹教諭	常勤 1名	幼稚園教諭免許、保育士資格
保育教諭	常勤 13名	幼稚園教諭免許12名、保育士資格13名
	非常勤 3名	幼稚園教諭免許2名、保育士資格3名
栄養士	常勤 2名	栄養士2名
計	20名	

- 職員の勤務形態、労働時間

- 正規職員の勤務時間帯

- ① 7:00～16:00 ② 10:00～19:00 ③ 8:00～17:00 ④ 8:15～17:15 ⑤ 8:30～17:30
- ⑥ 9:00～16:00 ⑦ 9:30～18:30 ⑧ 8:00～12:00 ⑨ 9:00～13:00
- ⑩ 7:00～12:00 16:00～19:00

## 17. 職務内容

- (1) 園長は園の業務を統括する。
- (2) 副園長は園長を補佐し、命を受けて総務、人事、経理、会計、管財に関する業務に従事する。
- (3) 主幹保育教諭は園長を補佐し、命を受けて教育及び保育内容について保育教諭を統括する。
- (4) 保育教諭は教育及び保育に従事し、その計画の立案、実施、記録及び家庭連絡等の業務を行う。
- (5) 栄養士は給食業務管理及び栄養指導等の栄養・給食に関する業務に従事する。

## 18. 利用料等

- 利用料負担額

- 支給認定を受けた市町村が定める利用者負担額の徴収を行う。

- その他の費用

- 延長保育料

- ① 保育時間 7:00～7:30及び18:30～19:00
- ② 利用料金（月額） 30分延長（朝、夕いずれか） 2,500円  
1時間延長（朝＋夕） 4,500円  
（日額） 30分延長（朝、夕いずれか） 200円  
1時間延長（朝＋夕） 300円

※被生活保護世帯及び前年度分所得税非課税かつ前年度分市民税非課税世帯は無料

- 預かり保育料（対象者：保育短時間認定利用者の方）

- ① 保育時間 7:30～9:00 17:00～18:30
- ② 利用料金（月額） 階層区分ごとの保育標準時間と保育短時間の利用者負担額の差額

- 預かり保育料（対象者：教育標準時間認定利用者の方）

- ① 保育時間 7:00～7:30 7:30～9:00 17:00～18:30 18:30～19:00

- ② 利用料金 (月額) 各時間区分利用それぞれ2,500円  
(日額) 時間区分 利用それぞれ200円
- 災害共済掛金について (年額) 210円
- 給食費 (対象者: 教育標準時間認定利用者の方)
  - ① (月額のみ) 5,000円 (内訳: 主食費 1,000円 副食費 4,000円)
- 3歳以上児の主食費 (対象者: 保育標準時間認定利用者の方及び保育短時間認定利用者の方)
  - ① (月額のみ) 1,000円
- 写真代 (年3回程度実施) 1枚37円  
園内や遠足などで撮影した写真を購入希望の方に1枚37円で販売する。
- 教育・保育用品
  - ① 指定購入品目 カラー帽子 800円
  - ② 自由購入品目 (スモック、体操服等)

## 19. 契約の解除

- 園児が小学校に就学するときは、卒園するものとする。
- 下記の場合、教育及び保育の提供を終了し、退園させるものとする。
  - 支給認定保護者の方が退園を申し出たとき
  - 保育認定こどもに該当しなくなったとき
  - 利用料の滞納やその他、利用の継続について重大な支障又は困難が生じたとき

## 20. 学校医・学校歯科医・学校薬剤師

- 学校医及び学校歯科医は、乳幼児期の診断治療に当たるとともに、健康管理・保健衛生について助言指導する。また、学校薬剤師は学校環境衛生に関して助言指導する。

学校医	林 政清	(林医院 神戸市北区山田町下谷上字池の内2 TEL581-0035)
学校歯科医	前田 龍一	(前田歯科医院 神戸市北区山田町下谷上字箕谷20-1 TEL581-3122)
学校薬剤師	和田 恵子	(テイエス調剤薬局箕谷店 神戸市北区山田町下谷上字鷹ノ子10-1 TEL583-9318)

## 21. 健康診断の実施

- (1) 内科健診 (年2回)
- (2) 歯科健診 (年2回)
- (3) 眼科検診 (年1回 4・5歳児対象)
- (4) 耳鼻科健診 (年1回 4・5歳児対象)
- (5) 尿検査 (年1回)

(6) フッ化物洗口 4・5 歳児の希望者を対象に 5 月から週 2 回実施 (無料)

(7) 身体測定 (毎月)

## 22. 衛生管理

- 学校保健安全法及び保育所における感染症対策ガイドライン (厚生労働省：平成24年11月) に基づいた対応を行う。

## 23. 非常災害時の対策・安全管理

(1) 交通安全指導 (年 3 回)

(2) 避難訓練

非常災害対策訓練年間計画表に沿って実施 (毎月)

(3) 不審者対応

出入り口の限定、オートロックによる施錠の実施

不審者対応訓練実施 (年 1 回)

(4) A E D の設置

(5) 乳児用呼吸モニターを設置

(6) 救急救命講習の実施 (年 1 回)

- 緊急時の避難場所

➤ 災害直後 このみ保育園

※ 建物の倒壊がない限り園内に留まる。

※ 出火等により二次災害が発生し、園内にとどまることが危険な場合は下記避難場所へ避難する。

➤ 第1避難場所 当園駐車場 (当園玄関向かい側)

➤ 第2避難場所 箕谷小学校 (松が枝町1-1 TEL 581-8030)

※ 災害の発生状況により、上記避難場所以外へ緊急避難を実施する場合もある。避難場所の連絡など、実際に避難を実施した際の連絡については、よい子ネット (<http://yoiko-net.jp/>) を使用して保護者の方へ一斉にメール配信する。

## 24. 苦情対応

(1) 苦情への適切な対応により、保育サービスに対する利用者の満足感を高めると共に、利用者が保育サービスを適切に利用する事が出来るように支援する事と、苦情を密室化せず社会性或客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより、円滑・円満な解決の促進や当園の信頼と適正性を図る為に苦情解決規程を設けて、お知らせ、ポスター、ホームページなどで周知する。

## 25. 守秘義務及び個人情報の取り扱いに関する事項

- 子どもたちを保育するために、必要な情報 (子どもの誕生日、健康状態、保護者名、住所、電話番号など) を保護者から頂く。これらの情報については、必要な目的以外には使用しない。以下については文章掲載や掲示、販売などを行うことがある。

- 市町村が認定した世帯所得に基づく毎月の基本保育料の金額の情報は、給付事務に必要な範囲に限り利用する。
- 緊急の場合、勤務先に保育園名を告げ、電話で呼び出しを行う。（緊急連絡先に携帯電話などを指定されている場合でも、つながりにくい時は、勤務先に連絡する。）
- 毎月のおたよりに、生まれ月の子どもたちを紹介する。
- 子どもたちの保育園での活動の様子を写真撮影し、それらを保護者が見やすい場所に掲示して注文を取る。
- 行事での集合写真や保育園の活動を撮影した写真や映像に、子どもたちと保護者や職員と一緒に写っている場合、対象となる人に写真や映像を配布もしくは販売する場合がある。
- 子どもたちの当園での活動の様子を撮影した画像をパスワード設定したうえで、よい子ネットに掲載する。（子どもたちの顔や名前が特定できないよう、画像サイズの固定を行う。）
- 緊急時には、関係機関（病院、保健所、警察など）へ該当する子どもの氏名、生年月日、住所、電話番号などを知らせる。
- 子どもたちを小学校等に送り出すにあたって、子どもの育ちが連続して受け継がれていくために、引き継ぎの資料を小学校等に送付する。

## 26. 送迎について

- (1) 保育所南側の箕谷モータープールに保護者送迎用の駐車場を6台分確保しているが、場所が集約されていないため、保育園玄関周辺に空きが出来れば順次、駐車場を移して場所の集約を図る。
- (2) 朝 7:00～10:00 及び夕方 16:00～19:00 の間、保育所南側の駐車場に交通安全の立当番を配置し、園児及び保護者、通行人の安全確保及び保育所種変道路の交通整理に努める。

## 27. 情報公開

- (1) よい子ネットの定期更新およびホームページの開設により、実施されているサービス内容や経営内容などの情報について、透明性の確保に努める。

## 28. 研修計画

保育教諭等には、自分自身の資質の向上を意識し、業務に必要な基本知識や技能を高め、専門性を高める意識を持ち、研修で学んだことを日々の保育活動に生かしていく必要がある。

保育教諭等に求められる人間性と専門性について、次の3つの視点を挙げる。

- (1) 子どもたちの育ちを援助する力を身に付ける。

保育教諭等の意図を優先し、子どもたちに対して、一方的に自分自身の考えを押し付けたり、働きかけたりするのではなく、保育の中心は、子どもが主体であるという認識のもと、子どもの思い（心に寄り添うこと）を感じ取ることが大切である。援助の方法は、子ども一人ひとりの状態や状況によって違う。常に、その時々保育教諭等は、子ども自身が自ら、自分の課題を乗り越えていくことの出来るよう、援助を行うことが必要だと考える。

- (2) 保育教諭等が豊かな人間性を身に付ける。

子どもの理解や受容は決して一方的なものではなく、保育教諭等の心と子どもの心の相互的な営みであると考え。子どもの気持ちを受け止めようと、保育教諭等が一人の人間として、子どもと関わる時、子どもたちは、それを感じ取り、心を開き、自分らしさを表現する。この関係こそが、互いの信頼関係を生み出す基盤となると考える。

### (3) モデルとしての保育教諭等

保育教諭等が自覚しなければならないことは、自分の持つ文化や価値観の枠組みを、保育の場において、意図的、または無意識のうちに、子どもに示しているということである。その時、常に保育教諭等は、この枠組みや価値観を絶対視することなく、いつも柔軟な姿勢で見直し続ける必要があると考える。子どもに自分の価値観を押し付けるのではなく、子ども自身が主体的に、それを取り入れたり、乗り越えて行けるようにすることが大切だと考える。

これらの視点から、平成 28 年度は以下の目的による研修を実施する。

- ① 専門性を高める研修（随時）  
（保育に必要な基本的知識及び実践力の向上に繋がる研修と、多様なニーズに対応するための研修）
- ② 自己課題を解決・達成する研修（随時）  
（一人ひとりの子どもの持つ課題に対して、どのように援助を行うのか、資質向上の研修）
- ③ ライフステージに応じた研修（随時）  
（年齢や、経験に応じた立場や役割を認識し、職務を遂行するために資質、指導力の向上を図る研修）
- ④ カウンセリングマインドを高める研修（随時）  
（保護者や、子ども一人ひとりの声に傾聴し、受容し、相互の信頼関係の確立を基本として、相談者の自立を援助するためのカウンセリングマインドを身に付ける研修）
- ⑤ 保・幼・小の連携を促進する研修（随時）  
（それぞれの地域の実情や、子どもたちの実態に応じ、子どもたちを中心に据えた実践研修）
- ⑥ 子育て支援者としての役割に関する研修（随時）  
（子育ての知識、経験、を蓄積している保育者が、地域における子育て支援の役割を積極的に担う研修）
- ⑦ 保育内容検討研修（年 12 回）  
講師：神戸女子短期大学 講師 八木 昌子 氏

## 29. 職員会議

- (1) 定例会議（毎月）

## 30. 委員会活動

- (1) 食育委員会  
子どもたちが、食べることに興味を示して、みんなで一緒に楽しく給食の時間を過ごせるように取り組む。
- (2) 環境委員会  
保育環境の整備、向上とともに、施設内外の設備及び用具等の安全衛生に注意し、活動する。
- (3) 保健衛生委員会  
子どもたち及び職員の安全及び健康の確保のために施設内外の保健的環境の維持及び向上に努める。
- (4) 保育研究委員会  
教育及び保育に関する様々な課題について研究を行い、教育及び保育の質の向上を図る。

## 31. 福利厚生

- (1) 職員健康診断（年 1 回）

- (2) 細菌検査（毎月）
- (3) インフルエンザ予防接種（11月）
- (4) 福祉医療機構退職共済加入
- (5) その他会議等で職員からの要望を聞き、要望を反映させていく

**※本計画書の取り扱い**

本計画書について外部への持ち出しを固く禁ずる。